資料２

教育委員会

体験活動を通した非認知能力の向上等の取組について

１　「未来を生き抜ける大人」を育てるために学校における非認知能力向上からの取組

⑴　背景・課題

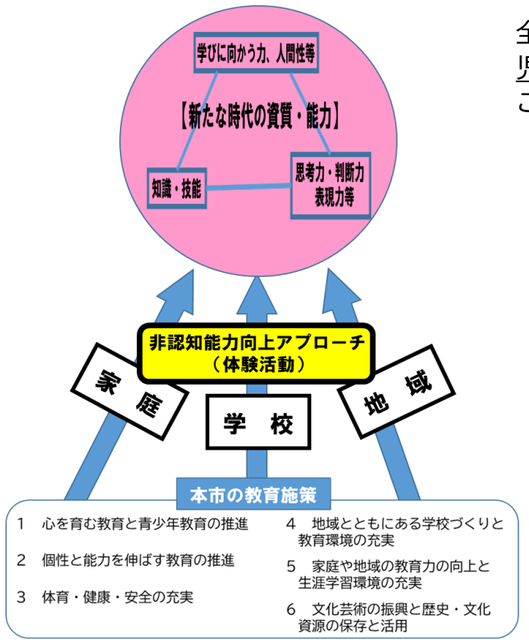
ア　全国学力・学習状況調査の児童生徒の意識調査結果において、「自分にはよいところがある」、「先生があなたのよいところを認めてくれる」と考えている割合が全国と比べて低く、自己肯定感が育成されていないことがうかがえる。

　また、その傾向が顕著な学校では、学力調査において平均正答率が低い状況が見られる。

イ　小中学校において、長期欠席・不登校傾向の児童生徒が増加しており、それに対する適切な対応と対策が急務である。

⑵　取組内容

【取組のイメージ図】



【ねらい】

　教育活動におけるあらゆる場面において、各学校で全教職員が、授業等の教育活動の目的達成とともに、児童生徒の非認知能力向上への関わりを行うことで、これまで以上の教育効果の高揚を図る。

《各学校における取組》

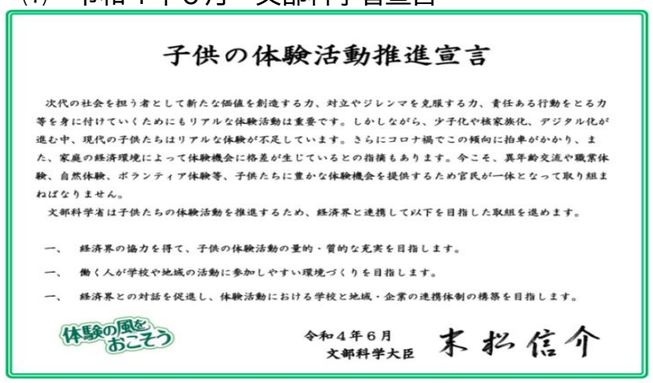
⑴　認める、認め合う授業
⑵　挑戦の場を設定する授業
⑶　コミュニケーション力を高める英語等の授業
⑷　誰一人取り残されない不登校等への対応
⑸　共に高めあう健康、体力づくりへの対応

【焦点化する非認知能力】

問題解決力	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	自己肯定感
批判的思考力	主体性	探究心
協働力	自己管理能力	独自性

２　各種答申等にみられる体験活動の重要性

⑴　令和４年６月　文部科学省宣言



子供の体験活動推進宣言

次代の社会を担う者として新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力等を身に付けていくためにもリアルな体験活動は重要です。しかしながら、少子化や核家族化、デジタル化が進む中、現代の子供たちはリアルな体験が不足しています。さらにコロナ禍でこの傾向に拍車がかかり、また、家庭の経済環境によって体験機会に格差が生じているとの指摘もあります。今こそ、異年齢交流や職業体験、自然体験、ボランティア体験等、子供たちに豊かな体験機会を提供するため官民が一体となって取り組まねばなりません。

文部科学省は子供たちの体験活動を推進するため、経済界と連携して以下を目指した取組を進めます。

一、　経済界の協力を得て、子供の体験活動の量的・質的な充実を目指します。

一、　働く人が学校や地域の活動に参加しやすい環境づくりを目指します。

一、　経済界との対話を促進し、体験活動における学校と地域・企業の連携体制の構築を目指します。

体験の風をおこそう

令和４年６月
文部科学大臣　末松信介

⑵　令和元年１０月　文部科学省通知
不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）

２ 学校等の取組の充実

⑷ 不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保

　体験活動においては、児童生徒の積極的態度の醸成や自己肯定感の向上等が期待されることから、青少年施設等の体験活動プログラムを積極的に活用することが有効であること。

３　学校教育における体験活動の推進

⑴　個性あふれる学校づくり推進事業

ア　本市学校の教育活動における体験活動の実施状況（※主なものを抜粋）

　市教委では、学習指導要領や市教育振興基本計画を踏まえ、「生きる力」を育むために、地域人材等の活用やキャリア教育の充実を図るよう、報償費や需要費等を予算化し学校における体験活動を支援している。

イ　市立小中学校の特色ある体験活動の例

（ｱ）農林水産体験活動（玉江小）
【伊敷長なす里帰りプロジェクト】

（ｲ）芸術・文化体験活動（小山田小）
【小山田太鼓踊り】

（ｳ）職業体験・就業体験活動（伊敷中）
【地域の様々な職場体験】

《体験活動の分類》

○社会奉仕活動	環境美化（清掃）活動
	老人ホーム等での活動
○自然体験活動	地域の自然についての理解
	生産・創作体験活動
○農林水産体験活動	農作業体験・園芸等の体験
	炭焼き・下草刈り等の体験
	漁業の体験
○芸術・文化体験活動	
○職業体験・就業体験活動	

４　学校教育外における体験活動の推進

⑴　新・郷中教育推進事業（放課後子ども教室）

ア　事業の趣旨

　子供たちが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、地域住民等の参画を得て、学習や体験・交流活動等に取り組む。その際、異年齢による活動を積極的に取り入れるとともに、各学年の児童が充実感を得られるような活動プラグラムの工夫を図る。

イ　事業実施校　　市内全小学校（７８校）

ウ　特色ある活動

	具体的な活動例
史跡巡り、郷土歴史	校区（地域）史跡巡り、かごっま弁に親しむ、日新公いろはかるた、鹿児島文化ゾーンめぐり　等
年中行事	七夕飾りづくり、餅つき大会、凧あげ、正月飾りづくり、しめ縄づくり、灯籠づくり　等
創作活動	竹とんぼづくり、折り紙、どんぐり工作、貝細工　等
自然体験	サツマイモ掘り、野菜づくり　等

⑵　少年自然の家主催事業等

ア　主催事業等を通した体験活動【延べ参加人数 5,147 人（Ｒ４年度）】

シリーズ名	活動数	開催時期	対象者	Ｒ４年度応募率及び満足度　等
親子ふれあいシリーズ	年 10 回	４月～３月	家族	応募率 167%　大変満足 83%、満足 17%
わんぱくシリーズ	年 ３ 回	8月、12月、2月	小１～高３	応募率 177%　大変満足 91%、満足９%
天体シリーズ	年 ３ 回	8月、9月、12月	家族	応募率 113%　大変満足 58%、満足 42%
施設開放シリーズ	年 ４ 回	年間を通じて	誰でも	応募率 117%　大変満足 99%、満足１%
栽培・収穫体験シリーズ	年 ７ 回	４月～11 月	家族	応募率 121%　大変満足 78%、満足 22%
出前講座（※）	依頼に基づき	随　時	20 人以上の団体	R４年度…20 団体 784 人　R５年度…18 団体 1,017 人(9 月現在)

※　出前講座は、公民館やＰＴＡ、社会教育団体等から「創作活動」「天体観測」「レクリエーション」等の依頼

かごしま創志塾	年 ４ 回	７月～12 月	小５、６	応募率 133%　満足度 100%
ジュニア創志塾	年 ４ 回	７月～12 月	中１～高３	応募率 123%　満足度 100%

○　自然による感動を得る活動

寺山ハイキング(活動プログラム)

○　郷土に学び、感動を得る活動

ＡＬＴへの観光案内(かごしま創志塾)

白銀坂遠行(ｼﾞｭﾆｱ創志塾)

○　主催事業等を通して豊かな情操や社会性を養う活動

【親子ふれあいシリーズ】
ＩＤＡＹキャンプ（春夏秋冬）

【栽培・収穫体験シリーズ】
親子で育てようサツマイモ

【わんぱくシリーズ】
わくわくアドベンチャーin 桜島

イ　集団宿泊学習【48 校延べ 9,308 人参加(Ｒ４年度)、60 校延べ 12,520 人参加予定(Ｒ５年度)】

○　所内、吉野及び鹿児島市の自然を活かした野外活動

○　思いやりや助け合う心、克己心を育む活動

○　自主性を育む活動

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾁｬﾚﾝｼﾞｹﾞｰﾑ(活動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ)

野外炊飯(集団宿泊学習)

自主性等を育むための活動への打合せ会

5　ＩＣＴと体験活動の融合による豊かな学びの創造（例）

～１人１台タブレットで鹿児島市全体を子どもたちにとっての学びの場に～

児童生徒に配布されているタブレット端末を、学校・家庭だけでなく、市の様々な教育施設等と連携して活用することで、児童生徒に多様な体験活動を促し、非認知能力の向上を図ることが考えられる。

各所での学びは、学習履歴データベースに保存し、学びのレコメンド（推奨）等、更なる活用も期待できる。

【　活　用　例　】